

ドイツ剣道紀行

ナショナルチーム強化指導

小森富士登

Account of a trip sentence of German Kendo

Reinforced guidance of National team
Fujito. KOMORI

I. 【緒 言】

2008年1月24日、ドイツ剣道連盟会長のDetlef. Viebranz氏より講師の要請があり、2008年3月15日～3月20日の6日間(春期合宿)、2009年7月9日～7月14日の5日間(夏期合宿)ドイツは(Sportschule Lindow) スポーツシューレ・リンドウにて主任講師として指導を行った。ドイツ剣道連盟は欧州の強豪国であり、筆者のドイツ剣道連盟での指導は、1983年より始まり26年間の交流になる。この2年(2008年3月及び2009年7月)の剣道指導内容はナショナルチーム強化であった。

ドイツ剣道連盟がナショナルチーム強化指導を筆者に要請した一つの理由は、2008年3月21～23日にフィンランドのヘルシンキで開催された第22回ヨーロッパ剣道選手権大会(European Kendo Championships)である。また、2009年8月28～30日にブラジルのサンパウロ州サンベルナウド・ド・カンポ市立アジモイゼスディビ体育館で開催された第14回世界剣道選手権大会(World Kendo Championships)のためでもあると思われる。

合宿所は、ベルリンから車で1時間ほど(150km程)のところにあるリンドウという小さな町の外れの森の中にあるスポーツ施設(Sport-und Bildungszentrum Lidow)で、規模は大きな敷地に空調設備(暖房)のある宿泊所と体育館・トレーニングルーム・サウナ・Bar及び室内プール、室外にはサッカー場が3面・ラグビー場・ビーチバレーボール場などが設置されている。周りには、アイシャーというドイツ特産の樹木と白樺等が生い茂り、すぐ下には地元の家族の人々が水泳・セーリング・カヌーを楽しんでいる大きな湖が美観を一段と装う。この雄大な大自然の景観は、スポーツ施設に相応しい環境である。

II. 【ドイツ剣道連盟ナショナルチーム合宿】

ドイツ剣道連盟合宿（2008年及び2009年）には、各州の剣道クラブから男女約100名（級～7段）が参加した。表1は、2009年のドイツ剣道連盟夏期合宿ナショナルチーム日程表である。合宿は、一般とナショナルチームに分かれて行われた。一般の指導は、佐藤成明範士8段（国士館大学客員教授）であった。筆者は、ドイツ剣道連盟ナショナルチームの強化であったが、フィンランドナショナルチーム（12名）やギリシャ（4名）・ポーランド（3名）からの参加があり合計40名の指導を行った。合宿初日は、18時集合で19時より筆者の紹介が行われた後（Welcomekeiko）を50分間行った。朝稽古は、午前6時30分より午前7時30分までの1時間、基本稽古や地稽古の指導である。午前中の稽古は、午前10時より午前12時までの2時間で主に体力強化のための基本稽古や技（しかけ技・応じ技）及び懸かり稽古を行った。午後の稽古は、午後2時より午後5時30分の3時間30分、試合稽古やフィンランドナショナルチームとの練習試合（ドイツ剣道連盟の国際審判員の指導も兼ねる）や一般とナショナルチーム合同での地稽古を中心とした内容で指導を行った。

夕食後は、合宿参加の剣士たちはBarに集まりBeerを飲みながら語り合い交流を深めていた。

合宿中、1日だけ防具の修理業者が出向いてくれたので、参加者たちは防具の修理を頼んでいた。修理業者は、以前は剣道をやっていた顔見知りであった。けがで剣道ができなくなり、この職業を始めたそうだ。

とにかく、短期間のスケジュールであったが、予定した成果をあげることができ無事に終了することができた。



合宿所の全体図

表.1ScheduleWCK2009KendoSummerGasshuku

1stDay		
18 : 00	Arrival	
19 : 00	Introduction Komori Sensei	5
	Welcome Geiko	50
20 : 00	Cool Down	5
2ndDay		
06 : 30	Kihon	60
10 : 00	Komori Sensei	120
12 : 00	Break for Lunch	
14 : 00	Warm up	25
14 : 30	Shiai	90
16 : 00	Break	15
16 : 15	Komori Sensei	75
17 : 30	Kakarigeiko / Cool Down	30
3rdDay		
06 : 30	AsaGeiko / Great Dojo	60
10 : 00	Komori Sensei	120
12 : 00	Break for Lunch	
14 : 00	Warm up	25
14 : 30	Shiai	90
16 : 00	Break	15
16 : 15	Komori Sensei	75
17 : 30	Kakarigeiko/Cool Down	30
4thDay		
06 : 00	Kihon	60
09 : 30	Warm up	25
10 : 00	Team Siai	60
11 : 00	Komori Sensei	60
12 : 00	Break for Lunch	
15 : 00	Soudan Sinsa	120
17 : 00	Komori Sensei	45
17 : 45	Kakarigeiko / Cool Down	15
5thDay		
06 : 30	AsaGeiko / Great Dojo	60
10 : 00	Komori Sensei	120
12 : 00	Break for Lunch	

Ⅲ. 【ドイツ剣道連盟の国際試合の結果】

筆者が、ナショナルチーム強化指導を行った後に開催された、第22回ヨーロッパ剣道選手権大会（European Kendo Championships. 2008年3月21~23日.フィンランドのヘルシンキ）及び2009年8月28~30日にブラジルのサンパウロ州サンベルナウド・ド・カンポ市立アジビモイゼスディビ体育館で開催された第14回世界剣道選手権大会（World Kendo Championships）のドイツ剣道連盟ナショナルチームの国際試合の結果である。

① 第22回ヨーロッパ剣道選手権大会 (European Kendo Championships)

「男子」

団体戦 2位

個人戦 3位 (Hans. Peter. Herr)

「女子」

団体戦 優勝

個人戦 優勝 (Susanne Aoki) 2位 (Wiebke Röhrbein)

「Juniors」

団体戦 3位

② 第14回世界剣道選手権大会 (World Kendo Championships)

「男子」

団体戦 予選リーグ敗退

個人戦 Best16 (R. Kump)

「女子」

団体戦 Best8敢闘賞 (Kei. Udagawa)

個人戦 Best16 (Susanne Aoki)

上記のように、第22回ヨーロッパ剣道選手権大会（European Kendo Championships）では男子・女子・Juniorsの各種目での活躍は目覚ましく、上位に食い込む成績を取ることができた。ドイツ剣道連盟は、ヨーロッパではトップレベルで強豪国といえる。

しかし、第14回世界剣道選手権大会（World Kendo Championships）では、その壁

は厚く男子団体戦は上位成績を残すことはできなかった。女子団体戦は、第13回大会では3位入賞であったが、今回はBest 8 と成績を下げたが、敢闘賞を獲得したKei.Udagawa選手とフィンランド女子団体Best 8 入賞の健闘を称えたい。また、男女個人戦でBest16入りしたRoberto.Kump選手とSusanne.Aoki選手とフィンランド女子Mia.Raitanen選手のBest 8 入賞の健闘も同様に称えたい。

IV. 【ドイツ剣道連盟のBundestrainer】

これまでドイツ剣道連盟は、剣道指導者 (Bundestrainer) を得る為に全日本剣道連盟 に派遣依頼を申請してきた。

剣道指導者 (Bundestrainer) は、警視庁 (15名) ・愛知県警 (2名) ・愛媛県警 (2名) 埼玉県警 (1名) ・神奈川県警 (1名) ・福岡県警 (1名) ・千葉県警 (1名) ・香川県警 (1名) ・山口県警 (1名) ・皇宮警察 (1名) ・歯科医師 (1名) と大学関係では、故、安藤宏三 (早稲田大学)、氏家道男 (国士館大学)、長谷川弘一 (会津大学)、筆者の4名である。警察関係の方が、圧倒的に多く派遣されている。

故、安藤宏三氏と筆者はドイツ剣道連盟からの指名を受けたBundestrainerである。

表2は、1978~2009年までのドイツ剣道連盟のBundestrainerを行われた方々である。



ドイツ、フィンランド、ナショナルチームと共に

表2. Bundestrainer, die dem DIB Sektion Kendo und später dem DKenB von der Zen Nippon Kendo Renmei gesandt wurden:

1978/1979	ITO. Katsuhiko	Tokyo Polizei
1979/1980	SUMINO. Mitsuo	Tokyo Polizei
1980/1981	KOBAYASHI. Hideo	Kanagawa Polizei
1982/1983	SATO. Yasuji	Tokyo Polizei
1983/1984	YONEYAMA. Toyohiro	Tokyo Polizei
1985/1986	<u>UJIIE. Michio</u>	Kokushikan Universität
1986/1987	HIRANO. Yoshiaki	Tokyo Polizei
1987/1988	SHIY A. Mitsui	Tokyo Polizei
1988/1989	AOKI. Eiji	Tokyo Polizei
1989/1990	SAKAI. Masaru	Tokyo Polizei
1990/1991	SEKIYAMA. Tetsuhiro	Tokyo Polizei
1991/1992	IGARASHI. Takanori	Tokyo Polizei
1992/1993	TOSU. Takeshi	Fukuoka Polizei
1993/1994	HAGA. Tadashi	Saitama Polizei
1994/1995	HASEGAWA. Koichi	Aizu Universität
1995/1996	<u>HIGASHI. Kazuyoshi</u>	Aichi Polizei
1996/1997	NAKAMOTO. Toshiaki	Yamaguchi Polizei
1997/1998	TAMURA. Toru	Tokyo Polizei
1998/1999	MIYAWAKI. Hirohito	Ehime Polizei
1999/2000	KUNIYOSHI. Tomonori	Palastgarde
2000/2001	ISHII. Takeshi	Tokyo Polizei
2001/2002	KURITA. Waichiro	Tokyo Polizei
2003	ENDO. Norihiro	Ehime Polizei
2003/2004	<u>MATSUMOTO. Masashi</u>	Kagawa Polizei

2004/2005	<u>SOMEYA. Tsuneharu</u>	Chiba Polizei
2006/10 ~ 11	HIRAO. Yasushi	Tokyo Polizei
2008/4 ~ 7	OHTA. Yoshiyuki	Zahnarzt
2008/2009	Yamabe. Takafumi	Aichi Polizei
2009/2010	IWASA. Hidenori	Tokyo Polizei

Bundestrainer, die privat von der Sektion Kendo des Deutschen Judo-Bundes eingeladen wurden:

1981/1982	† ANDO.Kozo	Waseda Universität
1984/1985	<u>KOMORI Fujito</u>	Kokushikan Universität

(注：下線のある氏名は、国土舘大学剣道部卒業生である。)

Bundestrainerは、ドイツ剣道連盟に6ヶ月間(2006年からは1~3ヶ月間)の滞在契約で剣道指導を行う。その内容は、各地方都市の剣道連盟での剣道の講習や技術のレベルアップを週4日の稽古で2週間か1ヶ月間の滞在で指導を行うのである。

これは、ホームステイをしながら巡回するので各地で最初は非常に気を遣うのである。ホストファミリーとうち解けた頃には、次の町へ移動することになる。

また、合宿でのナショナルチームの強化指導や昇段審査、ヨーロッパ剣道選手権大会(European Kendo Championships)での監督などが主な仕事である。



練習試合

V. 【ドイツ剣道連盟の昇段審査】

2009年7月12日午後には初段～3段までの昇段審査を行った。審査員は、佐藤成明範士8段Wolfgang.Demski教士7段、Rainer.Jättkowski教士7段、Paul-Otto.Forstreuter教士7段、Detlef.Viebranz教士7段、Hans.Schmitt 5段、筆者の7名で行われ、受験者18名全員が合格した。審査は、まず日本剣道形10本を行い、形が終了した時点で合否の発表がなされ、次に合格者が基本技・実技の審査を受験し、合否が発表される。その後、審査員は合格者各自に対しても今後の助言を述べて審査が終了される。一方、日本の審査では実技を最初に行い合格者の発表、その後合格者が日本剣道形を受験し、合格者が学科問題を提出する。

表3. 昇段審査の内容の相違

	ドイツ剣道連盟	全日本剣道連盟
初 段	形 10本・切り返し・しかけ技・応じ技・実技	形 3本・実技・学科提出
弐 段	同 上	形 5本・実技・学科提出
参 段	同 上	形 7本・実技・学科提出

ドイツでの昇段審査は、国際剣道連盟（FIK）の規約に準じ5段までの審査が行われている。しかし、剣道初段を受験する以前に6級審査から始まり、初段を受験するには3年間の剣道修行が必要である。

なぜ、このようにドイツ剣道連盟と全日本剣道連盟の昇段審査内容に相違点があるのかを調査した結果、以前ドイツ剣道連盟はドイツ柔道連盟（DJB）に所属していたために、ドイツ柔道連盟の規約に準じ有段者は指導者として認識され処遇もされていた。また、各州の剣道クラブには高段位の剣道指導者が少ないために、有段者は高度な技術と知識が必要とされるのである。

VI. 【ドイツ剣道連盟の今後の課題】

ドイツで剣道が開始されたのは1966年で、今日までの44年歴史がある。1978年以降毎年、全日本剣道連盟に要請し6ヶ月間滞在の指導員（警察官・教員）を迎えたり、春期・夏期合宿や寒稽古時に高段者（小林英雄範士・佐藤成明範士・歴代のBundestrainer）・10月の女子合宿（現在は、12カ国が参加）に10年前より佐藤理恵教士7段らの講師を招き、ドイツ剣道連盟は強化向上に努力している。その結果として、ヨーロッパではトップレベルまでに向上し、また国際剣道選手権大会においてもI部

リーグに属し、剣風・実力ともかなりの評価を得ている。しかしその一方では、幾つかの問題点も残されている。

では、実際にはどのような問題を抱えているかを調査した結果、

① ナショナルチーム強化選手の膠着

2008年、2009年にナショナルチームの指導を行ったが、その強化選手たちには同じメンバーであり、若手の選手を育成することが必要と思われる。第22回ヨーロッパ剣道選手権大会（European Kendo Championships）において、「Juniors」団体3位入賞はしているものの、まだそのレベルに達してはいない。

② 指導者の不足

ドイツ剣道連盟は、剣道指導者を育成するために剣道講習会や公認指導者認定の試験などを行っている。公認剣道指導者でも高段者が少ないのが現状で、各道場での技術指導もなかなか思うようにはいかないようである。特に、応じ技の指導が難しいようである。

③ 仕事との両立

所属するクラブでの剣道修業に関しては、仕事との問題は少ないが、剣道指導者講習会・昇段審査・合宿・国内大会・国際大会などの参加に休暇が取れない場合や合宿でも2日間の参加で終わったりすることも少なくないようである。実際に、ナショナルチーム強化選手を辞退した剣道選手もいる。



昇級審査

Ⅶ. 【むすび】

ドイツ剣道連盟は、いろいろな課題はあっても異国の文化を認め、国際大会、特にヨーロッパ剣道大会での活躍が目覚ましく、ヨーロッパでの強豪国として、剣道の普及発展に努めている。この2年間での、1週間という短い春期合宿・夏期合宿であったが、純粋に剣道に取り組み、真剣に剣道を学ぼうとしている姿勢が印象的な合宿であった。そのドイツ剣道連盟の人々と25年近くの文化交流する機会を得られた。今後、友好親善に更なる努力する所存である。

最後に、関係諸機関に感謝申し上げ、稿を締めたい。



夕食後の交流会